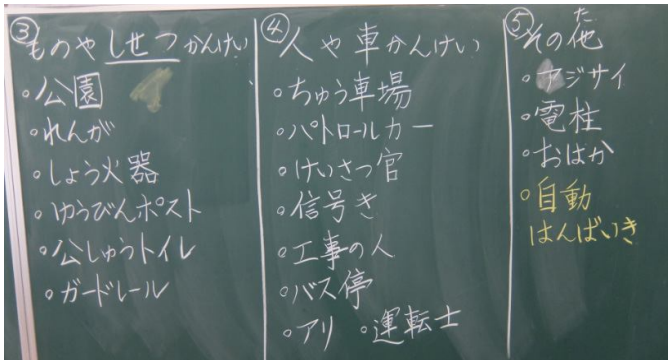
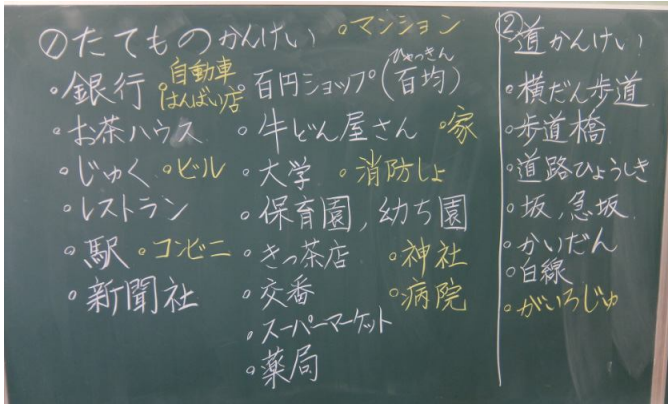


# 「ぐるっと茗荷谷・街たんけん(7)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

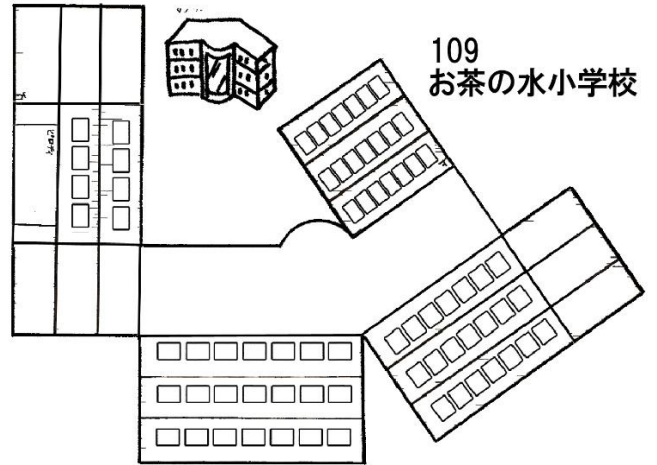
どうも「日々の理科」ではなく、「日々の社会」になってしまっているが、もともと私は社会が好きで、教材研究も楽しい。「街たんけん」のまとめは、社会の時間に行った。短時間で記録も忙しいはずだったが、子どもたちの「たんけんボード」は、街で見たものの記録で一杯になっていた。



これらの「街で見つけたもの」の記録は、社会の学習だけでなく、現在3年生で行っている創造活動「夢の街・ジオラマづくり」にも、大いに生かされることになる。



「ジオラマづくり」は、厚さ4cm、のポリスチレンフォーム(断熱材)を模造紙で覆い、その上に立体的な街を造ってゆく活動である。一つの班(3~4人)の土地(ボード)の大きさは、横90cm、縦60cmとかなり大きい。しかし軽量なので、子ども一人でも簡単に運べ、班の4人机の上に置いても、作業のスペースが残る。



建物は、工作用紙で作っても良いし、お菓子の空き箱や紙コップなども利用する。しかし、それだけでは能率が悪いので、私が何種類の型紙を用意している。上の図はお茶の水小学校の型紙である。算数でまだ展開図を学習していないので、ハサミで切ってそのまま折れば、自然に形になるように設計してある。



これが、子どもが作った「お茶の水小学校」。特に作り方の説明はしていないが、なかなかリアルにできている。どういうわけか、屋上から階段が作られている。聞けば「非常階段」だという。街たんけんで見たら、非常階段があったので作ったと話していた。郊外活動が生かされているようだ。

子どもたちは、大きなジオラマボードを囲んで、あーだこーだ言いながら、非常に楽しそうに、時には大喧嘩をしながら、「街づくり」の活動を続けている。